

評価計画				自己評価				学校関係者評価	改善計画		
中期経営目標	短期経営目標	達成のための方策	評価指標	目標値%	アンケート				結果と課題の説明	コメント	改善策
					教職員	生徒	保護者等	評価			
生徒一人ひとりの学力の向上	授業の質の充実	授業公開、研究協議の実施	授業公開、研究協議ができ、授業改善につながったと考える教員の割合	80	100			A	計画どおり校内、市内の学校での授業に積極的に参加し授業改善に繋げることができた。	先生方の毎時間の授業で、生徒に聞く力が年々ついてきていると感じている。きちんと話を聞かせることが授業力向上、学力向上の近道であると思う。	
	家庭学習の充実	家勉ノートの実施 目標時間（1時間）の設定・提示	家庭学習が1時間以上できている生徒の割合	70	75	69	59	C	生徒、保護者ともに3年になれば目標値に近づいている。1年からの取組を継続し、家庭学習の習慣を早く身につけさせたい。	小学校で中学校進学に向けて家庭学習の習慣をつけるよう取り組みをしてもらっている。中学校でも継続した取り組みが必要である。	学力調査結果から30分から1時間の学習時間の生徒が多い。目標時間1時間以上を生徒に伝える。 2、3年生は、学年によって目標時間を増やす。
	ICTを活用した取組の推進	AIDリルの活用 各教科等での活用	ICTを活用した授業を受けている生徒の割合。	70	90	38	84	B	全学年ともに生徒の活用率が低い。AIDリルの計画的な活用を全校で進めたい。生徒1年29%2年52%3年29%		3学期より金曜日を短縮授業にして放課後30分間AIDリルへの取組を始めた。何らかの形で新年度も継続したい。
自己実現を図るキャリア教育の推進	計画的な進路指導の実践	学級活動での進路学習、進路面談、進路希望調査の計画的な実施	年間指導計画に従って、進路指導ができたと考える割合	80	75	84	85	B	入試制度も変わり、1年からの取組を行い、早めに進路に対する意識を高めていく必要がある。生徒1年65%2年92%3年90%	金城で暮らしたいけど職場がない。金城で働ける場所があれば金城に帰ってくると思う。職場体験学習で金城の職場をしっかりと知ることが必要である。	職場体験学習実施後のまとめをしっかりと行い、みんなに発表することで、金城町内の多くの事業所についてみんなが知るようになる。
	体験的な学習の充実	地域に関わる学習の実施 ふるさと教育の実施 探究の過程を意識した指導	探究の過程を取り込んだ学習のできた割合	80	75	87		B	体験的な学習は実施しているが、自分たちの課題としてとらえて実施する必要がある。生徒1年82%2年83%3年95%	体験的な活動を通して、自分の考えをまとめて相手に伝えることが大切である。学校以外でも発表できる場があるとよい。	甚左衛門太鼓については小学生の発表している。職場体験学習についても映像でなく直に小学生に発表する場を考えたい。
	学級活動・生徒会活動の活性化	常時活動や清掃活動の充実	常時活動や清掃がきちんできている割合	80	90	100		A	それぞれが責任をもって学校や学級の自分の役割を果たしている。	3年生がリーダーシップを発揮して、自分のこととして頑張っている。	
	基本的生活習慣の確立	あいさつ、返事、くつろぐの呼びかけ	あいさつ、返事、くつろぐができていると考える割合	80	80	100	84	A	生徒会選挙の立会演説会でもあいさつの大切さが訴えられていた。挨拶がしっかりでき、明るく気持ちの良い学校になるとよい。	挨拶については金城の子は、大丈夫だと思った。	
生徒一人一人を大切に する生徒指導・特別支援教育の推進	主体性を育てる常態的・先行的生徒指導の推進	生徒指導の実践上の4視点 ①自己存在感の感受、②共感的な人間関係の育成、③自己決定の場の提供、④安心・安全な風土の醸成)での全教育活動での取組	左の4視点を取りこんで授業、行事、学級経営、部活に取り組んだと考える割合	80	100	95		A	全職員で生徒の自己有用感の醸成に取り組んできた。家庭にもPTA総会でお願いをした。全国学力調査で結果を毎年確認する。	大人と中学生が話し合いをする場を設け、中学生が大人に話を聞いてもらうことで認めてもらうと意欲に繋がっていくのではないかと。自己有用感も高まると思う。	学力調査結果で自己有用感が上がっている。昨年学校評議員さんから話していただいた「ほめて育てる」を全教職員で実践していきたい。また、地域の大人から声をかけてもらえるような場を設定していきたい。

9	生徒一人一人を大切に する生徒指導・特別支援教育の推進	多様な学びの場における教育環境の充実	特別な支援の必要な生徒、不登校・不登校傾向の生徒、1人1人の生徒に応じた対応	1人1人の生徒への対応ができていると考える割合	80	80	92	72	A	担任一人では対応がなかなか難しい。組織での対応が必要である。関係機関も交えたケース会議も必要である。一昨年度より保護者の割合が20%増加している。	生徒同士の関係をよくするにはコミュニケーション能力が必要である。子供達だけで難しければ大人が生徒の思いや、考えを聞く場を設定することも効果的ではないか。	支援の必要な生徒や、不登校、不登校傾向の生徒に、地域の大人が関われないか、学校運営協議会で検討してみたい。
10	ふるさとに誇りを持ち、大切に する生徒の育成	地域の教育資源を活用したふるさと教育の推進	町づくりセンターと連携した体験活動の実施	体験を通して金城町が好きになり、金城町の良さや課題が分かった生徒の割合	80	100	93	97	A	計画通りにふるさと教育を実施し、成果を上げることができた。来年度も継続していきたい。	大人と中学生がつながることが大切である。イベントなどがもっとできるとよい。生徒の意見を取り入れた活動がよい。	今までの活動にコミュニティースクールの委員さんからいただいた意見（金城の良さ・魅力を知ること）を入れて、活動がさらに充実するように来年度の計画を立てる。
11	ふるさとに誇りを持ち、大切に する生徒の育成	地域行事・地域ボランティアへの参加	地域行事・地域ボランティアへの参加	金城町のために何か貢献してみたいと考える生徒の割合	80	100	70	79	B	1年の甚左衛門W、さざんか祭り、大収穫祭のボランティアとして参加してくれた。各まちづくりセンターの行事等にも多く参加してくれるといい。	ボランティアに参加する生徒が多くなった。また、地域のために何かしたいという生徒が多い。金城町を盛り上げようという素直な子が多い。	町の催しもの、各町センターの行事で、中学生をボランティアとして使ってもらうように来年度も働きかけていきたい。
12	家庭・地域との連携	学校運営協議会、民生委員連絡会等地域との連携	学校評議員会、民生委員連絡会の実施	学校、それぞれの機関が連携できている考える割合	80	90			A	地域の方にお世話になり連携して多くの成果を上げることができた。	学校運営協議会では、来年度も生徒との意見交換をぜひ行ってほしい。	今年度の反省を生かして、来年度も生徒との意見交換の機会を設ける。
13		各種たより、HPによる情報発信	学校・学年便り等の定期的な発行 学校HPの定期的な更新 メール配信による情報提供	学校の活動の内容や様子がわかったり、適切な時期に情報が得られたと考える割合	80	100	88	91	A	保護者の皆さんから、アンケートの記述欄で意見をいただいたものには、校内で検討して改善していきたい。スグールでの情報発信が効果的である。		

0~10ポイントマイナス

11ポイント以上マイナス